

就職をめざす君たちへ



★企業が求める人物像 ～「コミュニケーション能力が高い」がトップ～

ようやく新型コロナウイルスが落ち着きを見せ始め、世の中はコロナ禍以前の状態に戻りつつあります。鹿児島工業高校でもすでにたくさんの企業の方が来校なさっています。今年の就職活動も例年どおりの状況になりそうです。

ところが、これだけの求人があるにもかかわらず就職試験で不合格になる人がいるのも事実です。これは企業が求める人材と就職希望者の人物像が合っていないことが要因だと考えられます。では、企業は一体どのような人物を求めているのでしょうか。帝国データバンクが行った、「企業が求める人材像についてアンケート」の結果を見てみましょう。

- 1 採用活動においてどのような人材像を求めているかを尋ねたところ（三つまでの複数回答）、「コミュニケーション能力が高い」（42.3%）と「意欲的である」（42.2%）が4割超となった。採用形態については、大企業の48.8%が「新卒採用がメイン」、中小企業の60.0%が「中途採用がメイン」と回答した。
- 2 採用形態別で比較すると、新卒採用をメインとする企業では「コミュニケーション能力が高い」「精神的にたくましい」を望む割合が高い傾向にある一方、中途採用をメインとする企業では「真面目、または誠実な人柄である」「専門的なスキルを持っている」を望む割合が高い傾向がある。
（期間は2022年9月2日～5日、有効回答企業数は1,550社、インターネット調査）



この調査結果から分かるのは、新卒採用の人にはそれほど難しいことを求めているということ。もちろん企業によっては特別なスキルを採用条件とするところもあるかもしれませんが、多くの企業は人間関係をきちんと構築できるか、ということに着目しているのです。

★面接試験でのアピールポイント

質問例：「高校時代に頑張ったことは？」

皆さんはこの鹿児島工業高校でいろんなことに努力を積み重ねていることだろうと思います。それらは就職試験の時に重要なアピールになるはずですが、他人が驚くような、特別な経験をしておく必要はありません（もちろんあればそれに越したことはありませんが…）。基本的には何でもアピールできるので難しく考えすぎないようにしましょう。

大切なのは「なぜそれに力を注いだのか」ということと「どう工夫したのか」です。工夫した方法をより具体的に説明することによって、その後の仕事にどう活かしていくかを面接官が想像しやすくなるでしょう。



ただし、真剣に取り組んだモチベーションと経験から成長できたことを述べていないと高い評価を得るのは難しいかもしれません。単に思い出話を伝えるだけにならないよう注意して、自身の個性や魅力を伝えることを意識しましょう。

★試してみよう！

以前、とある会社の入社試験で出された問題です。あなたはわかりますか？

「2本の導火線」

2本の導火線があります。どちらも1時間ちょうどで燃え尽きます。

この導火線は燃え方に速い部分と遅い部分があって一定ではありません。

この2本の導火線とライターを1つ使用して、45分を計ってください。



進学をめざす君たちへ

★さまざまな入試の形態について



学校推薦型選抜

「学校推薦型選抜」は一般選抜と並ぶ大学入試の柱の一つです。一番の特徴は、出身高校長の推薦を受けないと出願できない、という点です。出願にあたっては、「調査書の学習成績の状況〇以上」といった出願条件が設定されている場合もあり、誰もが出願できる入試というわけではあません。

学校推薦型選抜は、大きく分けて「公募制」と「指定校制」の2タイプに分かれます。この鹿工では「指定校制」で受験する生徒が多いのですが、国公立大学ではほとんど行われていません。また、「出願者は、合格した場合は必ず入学する者に限る」専願制の入試となっています（近年、他大学との併願が可能な併願制も増えてきています）。学校推薦型選抜を考える場合は、出願するうえで制約があることと、原則第1志望校に限った入試であることを理解しておきましょう。



国公立大学の学校推薦型選抜

国公立大学の学校推薦型選抜は、私立大学に比べて募集人員が少なく、出願条件のうち「学習成績の状況4.3以上」など厳しい成績基準を設けている大学があるほか、1高校からの推薦人数が制限されることもあります。また、国公立大学の場合は、共通テストを課す場合と課さない場合の2タイプに大別され、その入試日程も大きく異なります。

2021年度入試から、小論文など受験者自らの考えに基づき論を立てて記述させる評価方法のほか、プレゼンテーション、口頭試問、実技、教科・科目に係るテスト、資格・検定試験の成績、共通テストなど、学力を確認する評価を実施することが必須となりました。

総合型選抜

総合型選抜の主なパターン

「選抜型」

国公立大学や難関大学に多いパターン。小論文やレポートを課したり、長文の志望理由書や自己推薦書などを課してその内容をもとに面接するなど、受験生の負担も大きくなります。

「対話型」

私立大学に多いパターン。エントリーや正式出願を通して複数回の面談・面接を行い、学力面より人物評価や意欲、志望動機などを重視します。

「実技・体験型」

入試プログラムの中に、模擬授業やセミナー、実験などが含まれ、その参加が出願条件です。それにともない、レポート・課題提出などを行います。

総合型選抜は、各大学・学部が求める学生像（アドミッション・ポリシー）に沿って人物を評価して選抜する入試です。書類選考を経た後に小論文や面接などが課されることが多いのですが、各大学・学部の選抜方針によっては、それらに加えてグループディスカッションや自己プレゼンテーション、模擬講義を受けてそれについてレポートを提出することを求められたりすることもあります。また、出願前のエントリーシート提出や面談など、選考方法や課題は多種多様です。入試の名称も、「AO入試（アドミッション・オフィス入試）」「自己推薦入試」をはじめとして、各大学により多様です。



★進学後は大丈夫？

進学試験を受けて無事に合格しても、そこで終わりではありません。しかし、進んだ先の学校にうまく馴染めずに辞めてしまう学生がいるのも事実。それはどういう理由なのでしょう。

1 経済的理由

「収入の低下」による学費未払いを理由とした退学が多いようです。

2 学歴不振・意欲の低下

学業不振や意欲の低下を理由とした中途退学も多いとされています。また、「想像していた勉強ではなかった」という学生もいます。

このような事態に陥らないようにするためにも、保護者とじっくり話し合いを重ねながら計画を立ててください。また、大学や短大などは学問をするために行くところです。安易な気持ちで進学しないようにしましょう。